

平成 22 年度 教育課程編成にあたって

生活

1 平成 22 年度に求められる取組

(1) 年間指導計画の作成

年間指導計画や単元計画，教材や教具等を整備すること。

(2) 単元や教材の開発

- ① 振り返り表現する機会を設けるなど気付きの質を高める学習活動を工夫する。
- ② 「内容(8)生活や出来事の交流」に関する学習の充実を図る（伝え合い交流する活動の充実）
- ③ 自然の不思議さ面白さを実感する活動を取り入れる。
- ④ スタートカリキュラムを作成する。
- ⑤ 安全や生命などに関する単元開発を行う。
- ⑥ 幼稚園や保育所との連携・交流などを図る。
- ⑦ 継続的な飼育・栽培活動のための環境作りを行う。

(3) 配慮すべきこと

- ① 生活科の趣旨から考えて，英語や外国語活動を取り扱うことはできない。
- ② 2年間で飼育と栽培の両方を行う。安易な形で生き物を減らさない。

2 教育課程編成上，参考となる取組例

(1) 気付きの質を高める指導や支援の在り方についての取組（気付きのとらえについて）

○ 段階的な子供の気付き(対象への気付き)について 単元「海からのプレゼント」の例

- ① 第1段階 直観的な気付き 「きれいな貝や石があるよ」行ってみる・触れてみる
- ② 第2段階 発見的な気付き 「鳴らし方で音が変わるよ」やってみる・作ってみる
- ③ 第3段階 追究的な気付き 「ぎざぎざやつるつるがあるからだよ」なぜかを考える
- ④ 第4段階 再認識的な気付き 「こんな音も出せるんだ やってみよう」取り入れる
- ⑤ 第5段階 実践的な気付き 「海からのプレゼントで楽しい遊びができるね」振り返る

※ 必ずしも段階の順ではない。らせん状に関連しあい，跳び越えたり戻ったりすることもある。なお，1～3段階を多く繰り返すことが，大切である。

(2) 適切な動物飼育についての取組

○ 動物飼育に関係する諸機関と連携を図り，小動物の飼育等について専門的な立場からアドバイスをもらっている。うさぎやモルモットなど，飼育する動物は地域によっても違う。

※ 参考「学校における望ましい動物飼育のあり方」（文部科学省委嘱研究）

3 教育課程編成上の Q&A

Q1 習得，活用，探究の関係について生活科ではどう考えるか。

A1 教科としての特質を考えると「総合的な学習の時間」と近い面がある。習得，活用，探究に順序性はなく，探究する中で活用したり習得したりするなど，一体的に行われるとももの考える。

Q2 児童を見取り，気付きの質を高める教師のかかわりについて具体的に教えてほしい。

A2 活動させるだけではなく，何を学び取っているのか何に気付いているのかなど，児童の学習活動を豊かにするような環境構成を考える。初歩は，丁寧に子供の姿を見取り記録すること。